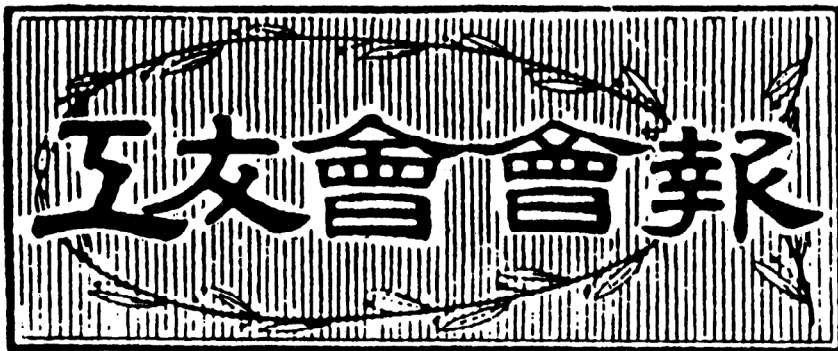


発行所
岡山県立岡山工業高等学校
工友会
岡山市伊福町4丁目3番92号
編集責任者:地頭代紘史
藤原 重喜
印刷所:旭総合印刷



ご意見、情報はこちらまで
TEL 086-252-5231
FAX 086-252-7130
http://www.okako.com/
ホームページ担当:今井
(昭58年子卒)

ごあいさつ



工友会会長
萩原 明
(昭和17年土木科卒)

平成十三年度の会報を発行するにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。まずは工友諸兄のご清祥をお慶び申し上げ、日頃のご支援、ご協力を感謝申し上げますのでございます。

平成十三年は不況打開の構造改革が模索され、テロ事件に揺れる



一年でしたが、母校創立百周年の記念すべき年でございました。母校百年の歴史(一九〇一〜二〇〇二)は、前半五十年が工業学校、工業学校の時代、後半五十年が工業高等学校の時代でございます。

百年間の卒業生は二万五千余名を数え、現在、工友の数は約一万八千名となっております。

県内はもとより、広く我国産業の各分野に於いて活躍しておられることは、誠に慶賀に存ずるところでございます。百年前、文化開花の流れの中で、西欧文明の模倣からスタートした我国の技術文明は、戦争で中途壊滅しましたが、後半五

十年、すばらしい展開を見せ、産業分野に於いて、現在、世界に誇る先端技術を有する社会が実現し、成熟した技術文明を私達は今享受しております。

しかし、環境汚染とか、温暖化等負の遺産も確実に増えており、これからの課題となっております。技術の社会は、IT革命による情報化、バイオテクノロジーの時代からナノテクノロジーの時代へと、更なる技術革新に動いております。

百年の歴史をもつ母校が工業教育の要として、我国産業の発展に貢献してきましたが、二十一世紀、更なる充実が図られ、躍進するものと確信いたしております。

去る十月十日開校記念日に、岡山市市民会館において、生徒千百名を含む千六百余名の参加を頂き、岡山工業高等学校創立百周年記念式典が厳粛にして盛大にとり行われました。誠にめでたいこととございました。午後から会場を岡山プラザホテルに移して母

校創立百周年を祝う記念祝賀会が岡山市役所支部校会のお世話で盛大に開催できました。中村支部長はじめ支部工友の皆さんにお礼を申し上げます。しかし、式典、祝賀会とも会場の都合で工友諸兄全員にご案内出来なかつたこ

ともあり、お詫びを申し上げます。許しを乞う次第でございます。

百周年の記念事業として、記念会館建設を企画し、平成九年より募金活動をしてまいりました。三千名を越える工友諸兄のご協力、学校、奨学会の協賛、そして又、企業からのご支援を賜り資金を集めることが出来ました。心より厚く御礼申し上げますのでございます。

記念会館は鉄骨造、延百五十坪、三階建てで、一階を食堂、二階をホール、三階を資料博物館として、平成十四年度、工友会館の西隣に建設するはこびでございます。

建設につきましては建友会(建築科卒業生の会)の方々が大変お世話になっており感謝申し上げます。るところでございます。

平成十三年度工友会総会は、県庁さくら会支部のお世話により、岡山プラザホテルに於いて、工友約三百名のお集まりを頂き盛大に開催することが出来ました。八幡木会長以下支部工友の皆さんにお礼を申し上げます。

母校の百周年が終わりました。これからの二十一世紀、工友諸兄のご健勝と、母校の更なる発展を願ひあいさついたします。

母校は創立百周年を迎えました。



創立百周年記念行事を終えて



学校長
長江 弘行

厳しい寒さが続く毎日ですが、日脚も延びて春の気配が感じられる時節となりました。工友会の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素から母校教育の発展と充実のために、物心両面にわたってご理解とご支援を賜っております。

特に百周年記念事業募金につきましては、ご無理をお願い致しました。お陰をもちまして記念会館建築可能な浄財をいただきました。衷心より感謝申し上げます。なお記念会館建設は、平成十三年度末に廃止されます後楽館高校伊福校舎の跡地を予定しておりますので、しばらく時間がかかると思われま

さて本誌面をお借りして学校の近況をご報告申し上げます。昨年十月十日、岡山市民会館において、創立百周年記念式典を開催しました。当日は工友会員、奨学会員、国会議員をはじめ自治体議員、教育関係者、その他多数の御来賓をお迎えして厳粛かつ盛大に行いました。生徒を含めて千六百余名の参加者で式場はほぼ満員となりました。式典では、



県教育委員会、県知事、県議会議長、岡山市長、全国工業高等学校長協会理事長、県高等学校長協会会長から祝辞をいただきました。主催者側として工友会長、奨学会長、生徒会長が挨拶を述べました。

直前の十月三日には記念体育祭を行い、例年になく盛り上がりを見せました。若者らしい元気あふれる競技と演技に加えて、学科を越えた応援と規律あるさわやかな態度は見る者に感動を与えました。

また十一月十日には、記念岡工祭をにぎやかに行いました。各クラス、部、委員会、専門科などが時間と手間をかけて準備し、工夫を凝らした展示、舞台、模擬店などができて、千人を超える来客でにぎわいました。

した。工友会女性支部「あじさいの会」が主催して多くの美術・工芸作品を一室に展示して下さり、花を添えてくださいました。

十一月九日から十七日まで工友会館にて記念回顧展を開催し、八百五十人の入場者がありました。

部活動については運動部、文化部ともに活発です。顕著な成果をあげた部をご紹介します。昨年夏の全国大会には、陸上競技、少林寺拳法、自転車競技、バスケットボール、ボクシング、カヌーの各部から二十六名が出場し、自転車競技のポイントレースで優勝しました。秋の宮城国体には、バスケットボール、陸上競技、自転車競技、ボクシングの四つの部から十一名が出場しました。陸上競技の百十メートル障害で優勝しました。そのほか弓道部が県高校新人戦で優勝しました。バスケットボール部は、秋の県大会に優勝して十二月の全国選抜大会に出場致しました。



各種ロボット競技大会においては、コンピュータ技術を駆使して優勝したり、全国大会に出場するなど好成績をおさめ、技術の高さを示しました。

このように生徒諸君は学習活動、部活動、記念行事などによく頑張ってくれまして、本校創立百周年を祝うとともに岡山工業高校の新たな出発の年にふさわしい二〇〇一年となりました。教職員一同は新世紀に活躍する工業技術者育成に全力であたる決意しております。今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに工友会の皆様の益々のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

母校創立百周年記念祝賀会を終えて 先輩諸氏に思う！

岡山市役所支部桜会支部長
中村 博 (昭和三十五年土木科卒)



創立百周年記念式展の様子。岡山市民会館。

平成十三年十月十日は、岡山市民会館が岡山工業高等学校の関係者で埋め尽くされました。同窓の友が、在校生が、来賓の方々が、更には学校関係者が、岡山県内はもとより関西・関東など全国各地から母校創立百周年を祝うため駆けつけたものです。記念式典は、伝統ある母校に相応した厳肅

且つ盛大なもので、改めて母校の偉大な存在を認識するとともに、学校並びに工友会のご尽力に感謝を致します。式典最後の在校生と一緒に歌った”東天燃ゆる…”は、感動で身体が震え、目頭が熱くなりました。親子以上に離れた世代と世代が一緒に志と決意をひとつにしようと



写真提供 池葉須 和孝(土32)氏

挨拶は、母校並びに先輩諸氏の実績と功績で満ちあふれ、改めて岡工の重みを感じずにはいられませんでした。お集まりをいただきました先輩達は、百名を越す賑やかなもので、このすばらしい節目を互いが祝し合い、和やかなうちに懇親を深め、この実績を新しい千年紀に語り継ぎ、何時までも学校と同窓の友が繁栄あら



した気迫は、会場いっぱいに流れました。午後からは、近くのホテルに会場を移し、”母校創立百周年記念祝賀会”が開催されました。萩原工友会長祝賀の



んことを祈念することができました。一口に百年と申しますが、志を同じくする者が互いに切磋琢磨し、学校発展さらには社会経済に貢献した実績は大なるものがあると思います、改めて先輩諸氏に敬意を表す次第でございます。私達、岡山市役所支部桜会は、皆様のご協力により、この会が滞りなく所期の目的を達成できたことに感謝するとともに、この会の諸準備をお手伝いさせていただく機会を得ましたことを誇りに思っています。私事になりますが、還暦の

平成14年度
工友会 総会
総会担当：岡山市水道局支部
佐々木 佳美 支部長
(土木科 昭和36年卒)
日時 平成14年7月14日(日) 10時～
会場 岡山プラザホテル
電話 086-272-1201

歳に母校の百周年を迎え、更には新千年紀のスタートの歳が重なり、我が人生にとつて最大のものでたい節目でありました。今後は、この節目を大切に、岡山工業高等学校の卒業生であることに胸を張り、先輩諸氏が築かれた歴史を大切に継承するため、小さなことでもお手伝いが出来たらと思っています。最後になりましたが、先輩諸氏におかれましては、何時までもご健健で益々ご活躍をされますことを、お祈りいたします。

総会を終えて

岡山県庁支部支部長
八幡木信行（昭和三十六年土木科卒）

工友会の皆様には、益々清栄のこととお喜び申し上げます。

母校創立の百周年の記念すべき年に「平成十三年度の工友会総会」を岡山県庁支部で担当させて頂き、平成十三年七月八日（日）岡山プラザホテルにおいて盛大に開催することが出来ました。

総会開催に当たりましては、支部員百二十五名の内、若い支部員四十六名を中心に半年前から準備をしまいいりました。また、工友会事務局の先生方、前年担当の岡山市支部の皆様、並びに諸先輩のご指導をいただき無事当日を迎えることが出来ました。

当日は好天にも恵まれましたが、創立百周年の年でもあり三百名を超える多数の会員の出席をいただきました。



からご挨拶を賜り、続いて平成十三年度の事業報告、決算、その他のご審議を頂き滞りなく終わることが出来ました。

尚、昭和二十九年美術工芸科卒業の木口省吾様が藍綬褒章を、昭和二十五年土木科卒業の岡崎登様が天皇賜杯を受賞されたことが、萩原会長よりご披露がございました。この荣誉に対し後輩として誠に

誇りに思う次第でございます。本当におめでとうございます。

懇親会では、開会宣言、鏡開き、乾杯に続き、よしもと三丁目劇場より二葉由紀子・羽田たか志（漫才）サウンドコピー（音響ものまね）によるアトラクションと、会場も爆笑の中、それぞれ談話の輪と懇親旧交を暖める宴となり、楽しい一時を過ごして頂いたものと思っております。

参加者の中には、懇親会を同窓会会場として有効に利用されている会員の方もおられます。今後この総会へ多くの会員皆様が集まり、盛大な会に成ることを心より願っております。

最後になりましたが、総会に際しましてご協力頂きました諸先生、諸先輩の皆様、そして当日受付を手伝って下さった「あじさいの会」の皆様、本当に有難うございました。また、ご多忙中遠路ご出席頂きました工友会各位に対しまして心より感謝申し上げます。皆様の益々のご健勝、ご活躍、そして工友会並びに母校の発展を祈念してお礼のご挨拶とさせていただきます。

総会に向けて

岡山市水道局支部支部長
佐々木 佳美（昭和三十六年土木科卒）

工友会会員の皆様方には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度、平成十四年度の工友会総会のお世話を岡山市水道局支部で担当させて頂くことになりました。私ども支部が前回総会のお世話をさせて頂いたのは平成六年度でございます。その時の経験者はほとんど卒業しましたので今回は新しいメンバーでの担当となります。皆様方のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

昨年は母校創立百周年の記念すべき年でありました。総会は岡山県庁支部の皆様を担当により七月八日（日）に開催され、また祝賀会が岡山市役所支部の皆様を担当により十月十日（水）に開催されました。百周年の年にふさわしく、それぞれに盛会で素晴らしい会でした。両支部の皆様には大

変お世話になり、ありがとうございます。ございました。

今年には母校岡工が新しい百年に向けて踏み出す年でございます。そして待ちに待った創立百周年記念会館建設の年でもあります。私ども岡山市水道局支部と致しましては、総会準備委員会を作り、皆様の思い出に残る楽しい総会・懇親会にしたいと考え準備を進めているところでございます。工友会会員皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。常連の方、若い方、女性の方、老若男女を問わず皆様お誘い合わせて頂き、多くの会員皆様のご参加のもとに総会の成功と工友会の益々の発展を望む所存でございます。よろしくお願致します。

なお、開催日は平成十四年七月十四日（日）、会場は昨年と同じ岡山プラザホテルでの開催を予定致しております。



【関東支部】

誇り高き母校百周年は
ノーベル賞創設百年と同歴史



関東支部長
岡崎 登
(昭和25年土木科卒)

工友会の皆様には、平素から格別のご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

上半期は、半導体・IT関連需要の落ち込みにつれ設備投資の減少に伴い過去最悪の失業率を記録する中で、国際社会の構図は米国同時多発テロが発生、九月十一日の衝撃の大きさに平和や繁栄といった当然のことが根底から崩れ去り、底知れない不安感を抱きながら、普段の生活を取り戻そうとしていた矢先に、「白い粉」の炭疽菌が波及、一段と市民は恐怖と危機感をつのらせている。

一方、国内における経済情勢も極めて厳しい状態に転じ金融システム・「ベイオフ」の改革、不良債権処理問題も減速傾向を示し、中小企業の空洞化に加え、昨今の狂牛病汚染が急浮上。行き先不透明感が一層強まり個人消費は底堅

く推移しており、一段の景気悪化が懸念されている状況の下で、輝かしい母校百周年を迎えた。誠に目出度く同慶の至です。丁度時を同じくして、「ノーベル賞」の創設百周年と同一年代の歴史的背景にあつたことは誠に意義深いものと感銘した。

十月十日岡山市民会館に於いて創立記念式典を迎えるにあたり、井上 満(十八年卒)、赤木勤(化三十年卒)と筆者が参列。厳粛な会場には岡山県知事、代議士諸先生、先輩各位を一堂に介し祝辞が述べられた中でも萩原会長の挨拶には感動させられた。

会長は、本事業完遂のため昼夜を分かたぬ多忙な日常業務の中にあつて氏の天性の勤勉さと積極的な行動力を駆使して縦横に活躍され、対外的にも工友会発展のため長年専心し情熱を燃やし続けてこら

れた真摯な努力に対し心から感謝の意を表します。

さて、平成十三年度関東支部総会は、二十一世紀最初の幕開けとなり、母校創立百周年を迎える記念すべき総会となることを期待し、四月十五日(日)東京駅「みかど会館」で開催、当日は天候にも恵まれ、本部からのご来賓を含め四十

名の出席を賜り、平成十二年度事業報告・決算、十三年度事業概要の報告に続き、萩原会長からは依然として厳しい環境下ではあるものの、百周年記念事業募金活動に対しての協力依頼、並びに記念会館設立に際し母校に隣接している後楽館高校の廃校後の跡地の活用について目下検討中である云々：：につき一同明るい希望を抱いた。

長江校長からは生徒諸君の学習状況、運動部の活動等々中でも吹奏楽部が県コンクー

ルで金賞を獲得、全国高校ロボット競技大会で優勝したと等新世纪に活躍する人材育成という使命を全うすべく鋭意努力中とのこと、感謝の気持ちで拝聴。また地頭代先生からはIT教育の実践的取り組み方、インターネット採用の実体について報告があり会員一同有り難く拝聴した。

引き続き会員一同の記念写真から懇親会へと：：。昭和二十年六月二十九日B二九による岡山大空襲一夜にして校舎焼失、廃墟と化したバラック校舎での授業。各々の思い出話が岡山弁で懐かし語り合っている様子は母校出身者の絆である。また、リストラの難題に向かつて若き後輩の悩み、痛みを聞き就職問題に夢を託しながら互いに勇気付け親身になって話し合えるのも有り難いことである。

会員一同すっかり陶酔、ストレスも発散したところで校歌を合唱、池口副会長による気合いの入った関東三本で目出度く散会となった。

師走も足早に通り過ぎる戦狂乱恐命壊爆新崩牛、争変改米生痛和失暗：：。のろいの呪文ではないが、「食」では狂牛

病があり、炭疽菌という「毒」があり、マイカルや青木建設の「倒」がある。今年の世相を表す「戦」も対テロ戦に加えて、ここ二、三年の厄災と見える。工友会の皆さん、今少し、あわてず、騒がず、注意深く平常心でいたいものである。終わりにあたり工友会の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

(平成十三年十二月十一日起稿)



【大阪支部】 （岡友会）

真寺 豊
（昭和38年化学科卒）

工友会会員の皆様には、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

平成十三年度第二十一回大阪支部（岡友会）の総会が、十月二十七日（土）十二時より恒例になった京橋扶桑会館にて開催されました。今年も日程が秋の行楽時期と重なり、参加者が減るのではと心配いたしました。が、会員諸氏のご協力で五十名を越す参加者になりました。例年のように会員諸氏が再会されて笑顔で挨拶が交わされていました。総会前に幹事会を開催し一年間の業務報告および反省、次年度の取り組み事項、会計報告・監査報告等の審議を行った後、定刻より若干遅れて総会開催になりました。

総会には、ご多忙中ながらも来賓として、萩原工友会会長、大高教頭、地頭代工友会事務局長の先生方にご出席を頂きました。

総会は、黒田岡友会会長（昭和二十化学科卒）がやむを得ない事情で欠席され、長岡副会長（昭和二十三年木工科卒）の挨拶となり、工友会本部、母校、在阪会員のご協力で二十一回目の総会が迎えられたことに喜びを感じました。また、工友会本部にて学校創立百周年の記念会館建設に対し、経済環境が大変厳しい中会員諸氏にご協力いただいたことに感謝いたします。今後も工友会の在阪支部として、工友会本部のご指導を頂きながら、在阪会員の連絡・懇親の会として運営して行きたたく考えています。景気動向が不透明ではありますが、会員皆様のご繁栄とご健康を願うところです。と挨拶されました。

萩原工友会会長より母校創立百周年の記念事業に対する募金について、経済環境が悪い中で多大なご協力を頂いておること大いに感謝している。とお礼の言葉がありました。また、記念会館の具体的な建設に掛かるには、設計・施工等は工友のご協力を得ながら進め、場所は本校に隣接するところになる予定。

ただし、予定地は遺跡の絡みもあり、若干の時間がかかる可能性もあります。とご挨拶を頂きました。



きました。

大高教頭先生からは、長江校長先生が公務出張（全国校長会）のため出席できない旨のお断りと岡山工業高校が岡山県下で中心的な役割を果たしている状況、創立百周年記念行事が厳粛に進んでいることのご報告と会員諸氏のご協力に感謝するとのこともありました。

地頭代先生からは、時代にマッチしたインターネットを利用した活動状況、公的資格取得への挑戦、クラブ活動充実等の生徒諸君が頑張っている近況のお話をお伺いしました。

議事に入り、為房岡友会事務局長（昭和二十五年化学科卒）より、「母校創立百周年記念事業」の募金については、今だ継続中であり忘れていた方があればご協力をお願いします。また、会員

動静、岡山県事務局主催の在阪同窓会の連絡会議があった旨の報告があり、続いて会計収支報告、対する会計監査報告があり、原案通り承認され無事に総会が終了いたしました。

総会終了後、会場を移し懇親会に入りました。山崎岡友会副会長（昭和二十三年土木科卒）の乾杯の音頭で始まりました。懇親の途中で井上岡友会副会長（昭和二十四年化学科卒）より還暦を迎えられた会員諸氏に記念の“杯”が贈られました。日常は、業務・勤務地・住居地の都合で逢う

こともなかなか難しく久しぶりに参加された方、初めての方等、萩原会長をはじめご来賓の先生、女性の会員さんを囲みお昼の一時を楽しく過ごしました。

時間も過ぎ、恒例になった在阪校時代別のグループになり、その時の校歌を合唱して今だ岡工卒業生の意気軒昂な面が發揮され、健康に留意しながら来年の再会を約しあつて散会となりました。

第二十一回岡友会総会が無事に終了したことを支部報告と致します。

【広島支部】

岸本 義徳
（昭和37年土木科卒）

での岡工百周年記念式典にも元気にご出席、これから支部の発展にご尽力と想っていた矢先、十月二十三日早朝、多臓器疾患により急逝されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

■新支部長 足立良成氏（昭和二十九年工業化学科卒）の誕生
十一月二日（金）支部規約により臨時幹事会を開き、現副支部長足立良成氏に、新支部長をお願いすることに決定しました。

工友会の皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。広島支部の近況をご報告申し上げます。

■支部長 三宅皓生氏（昭和三十六年土木科卒）の逝去

昨年六月河原支部長のあとを継いで、十月十日岡山市市民会館

『広島支部長就任にあたり』

足立 良成
岡山工業高等学校工友会々員の皆様には、益々ご健勝で、ご

活躍のこととお慶び申し上げます。去る十月二十三日、三宅支部長の突然のご逝去により、副支部長の私がお引受けさせて頂いていただくことになりました。いざさか躊躇の念がありますが、諸先輩や、会員皆様のご指導のもとに、微力ながら支部発展のために、努力いたしたく決心しております。皆様のご支援、ご協力宜しくお願い申し上げます。

■支部総会

今年の総会も平成十三年六月二日(土)広島駅前、ホテルセンチュリー21にて開催しました。本部より萩原会長、長江校長、事務局代理として平田(土36)土木科長のご来臨を得て左記会員により開催しました。

- 谷口幸男(機30)河原克平(土13)黒崎万亀夫(土17)荒木弘一(土25)伊丹剛(土26)大森智(土29)三宅皓生(土36)岸本義徳(土37)守時優(土42)入江久夫(土44)宮本忠行(土45)末広勉(化30)三近秀樹(建35)内田和男(土27)以上十四名

三宅支部長より支部活性化のために各科より二名の幹事の選出要望がありました。ご来賓の萩原会長より、母校百周年記念事業について、また募金状況について説明、校長先生から

学校の近況を聞くことが出来ました。

■親睦会

七月二十七日(金)午後六時三十分より、幟町アサヒビアケ



ラ広島にて恒例の親睦会を開催しました。集会者十四名、飲むほどに、酔いもまわり、不景気風も吹き飛ばし、昔話に花を咲かし、楽しいひとときを過ごしました。

- 出席者は、平敏規(土39)三近秀樹(建35)三宅皓生(土36)守時優(土42)石井剛(土42)藤原克己(土42)安倉健一(土42)岸本義徳(土37)北口和秋(機21)河原克平(土13)内田和男(土27)野上明(電45)石賀力(機36)末広勉(化30)

■秋の一泊旅行

十一月十七、十八日、今年の一泊旅行は、出雲を計画し、ご案

内しましたが、参加者が三名と大変希望者が少ないので取り止めとなりました。ちなみにお亡くなりになった三宅支部長はご出席の予定でした。

■親睦ゴルフ会

毎月第二水曜日に引継ぎゴルフ会を開催しております。毎回数名の参加者を得て、特安のプレイ代金で楽しくやっております。同好の方は、左記へ連絡、ご参加お待ちしております。ゴルフを始めようと思っている方もご指導して貰えます。

連絡先 佐伯郡湯木町「86-1 伊丹 剛 ☎08262-3-0026

【女性支部】
(あじさいの会)

畑中美代子
(昭和31年美術工芸科卒)

平成十三年は、新世紀の始まりの記念すべき年であり、母校創立百周年を祝う記念すべき年でした。

十月十日には、市民会館に於いて在校生をはじめ多くの来賓の方々をお迎えし、盛大に記念

式典が挙行され、校訓である「誠実勤勉」の精神のもと、物を造る学校として、多くの先輩方の各地での活躍の様子を拝聴し、改めて母校の歴史に感激いたしました。

午後からは、岡山プラザホテルで、祝賀会が岡山市役所支部のお世話で開催され、あじさいの会会員も出席させていただきました。前後しますが七月の工友会総会では、県庁さくら会のお世話で、岡山プラザホテルで開催され多くの工友会会員の方々、あじさいの会会員も喜んで出席させていただきました。

あじさいの会は、第十六回総会をあじさいの咲く頃、六月に開催しています。女性の会らし



く、終始和やかに、母校創立百周年の話題が中心になり、話が尽きることなく楽しい一日となりました。工友会武市副会長、母校よりデザイン科福嶋先生、にご出席いただきました。あじさいの会は、連絡がよく取れなくご案内を差し上げていない方もあるかと思いますが、是非お誘い合わせの上、ご参加、ご連絡をお願いいたします。

「工友美術展」を一年に一度、文化センターで工友会会員有志で展覧会を行って、あじさいの会の会員も参加させていただいております。平成十四年は、第七回を八月に一週間の予定で開催します。

秋の岡工祭では、七年前より「あじさいの会一日作品展」のコーナーを小体育館に設けていたが、在校生と話し合うことが出来、青春時代を思い起こし若い方のエネルギーをいただきたいです。今年は、百周年記念の大きな節目であり、一人一人の喜びが表れたお祝いの年であったと思います。

最後になりましたが、工友会会員の皆様のご健康とご活躍をお祈りし、母校の益々の発展を祈念いたします。

創立百周年記念事業実行委員会事務局だより

事務局長(教頭)大高正憲

経過報告

●平成九年十月十二日 百周年記念事業実行委員会設立発起人会 参加者 六七名
●平成九年十一月二十九日 百周年記念会館建築 募金趣意書配布 工友会員・旧現教職員 約一万八千通
●平成九年十二月十四日 第一回記念事業実行委員会 参加者 六十七名

第三回記念事業実行委員会 参加者 四十九名 募金中間報告 四千二百六十四万円
おもな内容
一、募金活動を継続する。
二、記念会館は、後楽館跡の利

用も検討に含め、当初の募金趣意書に沿った建設にはこだわらない。
三、記念会館の完成期日は創立記念式にこだわらない。
四、記念会館に関しては、平成十三年三月三十一日を目標に決定する。

●平成十年六月十七日 第二回記念事業実行委員会 参加者 六十一名 募金中間報告 二千二百六十七万円
●平成十一年五月三十日 第二次募金お願い文・記念誌申込書配布 工友会員 約一万七千通

●平成十一年六月三十日 第二次募金お願い文・記念誌申込書配布 旧職員 四百八十四通
●平成十一年七月五日 卒業生クラス代表者募金活動協力依頼文配布 千三十通
●平成十一年十一月二十一日

●平成十二年五月二十九日
●平成十二年七月二十八日 第三次募金お願い文配布 工友会員 一万七百六十六通
●平成十二年十一月一日 オナー(工友会員)への募金協力依頼文配布 四百五十八通
この他にも次のような募金活動を行った。

・岡工教職員懇談会を開き募金をお願いした。二回
・工友会五十六支部に対して募金活動をお願いした。
・求人のお礼に合わせて募金の趣意書を配布した。約三百社
・出入り業者に対して募金をお願いした。約三十社
・企業を訪問して募金をお願いした。約三百社
・工友会支部のない町村役場に募金をお願いした。
・工友会の新支部を結成して募金をお願いした。二支部

●平成十三年一月二十日 第四回記念事業実行委員会 参加者 四十六名 募金中間報告 六千五百四十五万円
一、募金活動は今後大口(企業・工友会支部)を中心に行う。
二、記念会館については後楽

館高校食堂跡地を中心に検討を進め、平成十三年十月の記念式典を目標に方向を決定する。
●平成十三年九月二十二日 第五回記念事業実行委員会 参加者 五十六名 募金中間報告 八千四百三十五万円



●平成十三年十月十日 創立百周年記念式典
岡山市民会館において、岡山県教育委員会をはじめ県議会、市議会、学校関係、工友会、奨学会など約三百名の来賓の出席をいただき厳粛かつ盛大に挙行することができた。
式次第
開式の辞
国歌斉唱
物故者に対する黙祷
校長式辞
岡山県教育委員会祝辞
感謝状並びに記念品贈呈
受賞者代表謝辞
来賓祝辞
来賓紹介
工友会会長挨拶
奨学会会長挨拶
生徒会会長挨拶
校歌斉唱
閉式の辞

一、募金については、税制上の寄付金控除適用とならないが今後とも引き続き行う。
二、記念会館については、一階が食堂、二階が多目的ホール、三階が資料展示室の三階建てとする方向が示された。
また、これまでに二十回の創立百周年校内準備委員会と5回の創立百周年校内実行委員会を開催し、五回の記念事業実行委員会委員長・副委員長会を開催している。

今年度の記念事業・行事
二百年祭「開会宣言」平成十三年四月十一日
小文化祭 平成十三年六月十八日〜二十八日
岡工百年歩み学習会 平成十三年六月二十七日
百周年記念垂幕お披露目 平成十三年七月五日
創立百周年記念体育祭 平

成十三年十月三日

創立百周年記念式典 平成十三年十月十日

創立百周年記念式典

平成十三年十月十五日

創立百周年記念芸術鑑賞

成十三年十一月九日

創立百周年記念回覧展 平成十三年十一月九日

成十三年十一月九日

タイムカプセル封印 平成十三年十二月

記念岡工新聞発行 平成十三年十二月

「百年祭」閉会宣言 平成十三年十二月十四日

創立百周年記念人文字撮影 平成十三年十二月

創立百周年記念誌発行 平成十三年十二月

創立百周年記念式典

創立百周年記念式典

創立百周年記念式典

創立百周年記念式典

創立百周年記念式典

成十三年十二月

創立百周年記念会館建設 平成十四年予定

記念行事・記念事業も、記念会館の建設を残しほぼ当初の予定通り終了することができました。この百周年という記念すべき節目に、工業教育の基本理念である「ものづくりを通して人をつくる」をもう一度再確認し、本校の歴史と伝統を踏まえながら岡工生としての自信と誇りを持ち、二十一世紀を逞しく生きる工業人の育成にあたつていきたいと思います。今後とも工友会の皆様の熱きご支援をよろしくお願いいたします。

祝・荣誉

藍綬褒章 木口省吾 (昭和二十九年美術工芸科)

天皇賜杯 岡崎登 (昭和二十五年土木科)

勲四等旭日小綬章 太田 倭 (昭和二十五年木工科)

勲六等单光旭日章 中吉 淳 (昭和十七年機械科)

百周年記念式典まで半月を控えた九月二十五日火曜日、いつも期待して見ているNHKの番組「プロジェクトX」に本校卒業生が紹介された。岡工の学生帽、詰襟に科章をつけたまざれもなく岡工生だった。その人の名は佐古井耕三、昭和三十三年機械科の卒業生である。

ドーバー海峡海底トンネル



NHKの人気番組「プロジェクトX」に出演された佐古井耕三氏。(右手中央)

本人技術者達の物語だった。このトンネルを掘った重さ千トンの「鉄のモグラ」と呼ばれるトンネル掘削機の設計を担当したのが佐古井氏である。そして現地所長としてドーバーへ乗り込んだ技術者一〇名

番組はパリ北駅からイギリスに向かうユーロスターがドーバー海峡海底トンネルに入る所から始まった。タイトルは「巨大モグラドーバーを掘れ」地下一筋、男たちは国境を越えたくヨーロッパ二百年の夢だったイギリスとフランスをつなぐ海底トンネル「ドーバー海峡鉄道トンネル」が一九九九年六月貫通した。

ドーバー独特の地質や言葉の壁など様々な困難に立ち向い、当初の予定よりも早く海底トンネル貫通を成し遂げた日のチームリーダーを務められた。早速、会報にご寄稿を依頼しましたところ、快くお引き受け下さいました。

【佐古井氏の経歴】
一九五八年三月 岡山県立岡山工業高等学校 機械科卒業
同年四月 川崎重工業(株)入社
一九九七年六月 同社を退職し、川崎重油工(株)を経て現在日本ケーモー工事(株)勤務。
■職歴(川崎重工業)
一九五八年～六二年 航空機関係の試験装置設計に従事
一九六三年～六四年 船用甲板機械の開発に従事。
一九六五年～九七年 トンネル掘削機の開発設計に従事
その間八八年～九二年、ドーバー海峡トンネル工事の操業指導のため所長として現地駐在。
NHKのホームページ (<http://www.nhk.or.jp/projectx/>) でもご覧頂けます。

創立百周年記念会館



創立百周年記念事業募金につ
きましては、多くの皆様のたい
へんなご協力を頂き誠にありが
とうございます。お陰を持ちま
して創立百周年を記念する記念
会館が建設の運びとなりました。
建設場所は、今春九十九年の
幕を閉じる旧岡市工（現後楽館
高校伊福校舎）の給食室跡地で
工友会館の西隣りになります。
記念会館は、鉄骨構造の三階

建て、延べ約五〇〇平方メー
ルの予定です。
一階は食堂と厨房、二階は多
目的ホールと工友会資料室、三
階は記念博物館と収蔵庫になり
ます。記念博物館には、本校に残
っている古い博物館的なものや、
これまでの工業教育の歩みがわ
かる品物等を展示し、岡工の歴
史を大切に保存することになっ
ています。

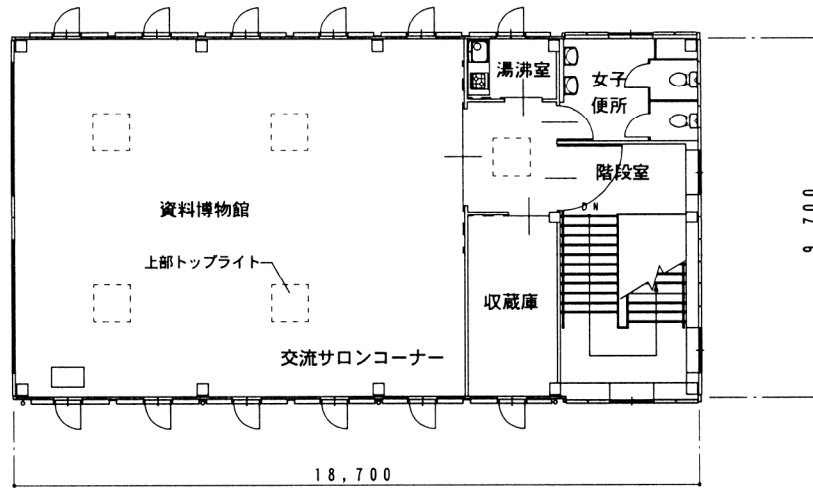
設計は、記念事業実行委員会
委員長である萩原会長から、岡
工建築科卒業生の同窓で組織す
る「建友会」に依頼され、現在、建
友会を中心に実施設計が検討さ
れています。
工事は平成十四年度から着工
し、創立記念日には完成の予定
になっています。



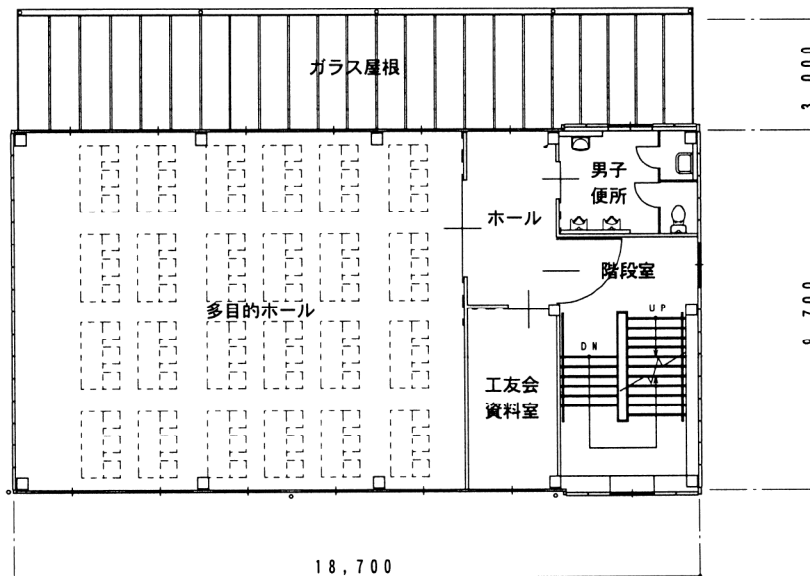
北面立面図



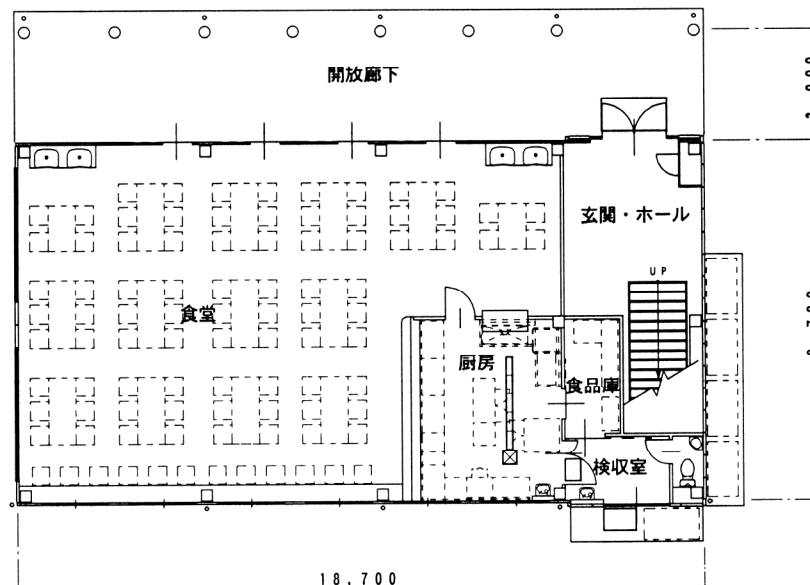
南面立面図



3階平面図
182.15㎡
(55.11坪)



2階平面図
182.15㎡
(55.11坪)



1階平面図
(55.11坪)

延床面積
546.45㎡(165.33坪)

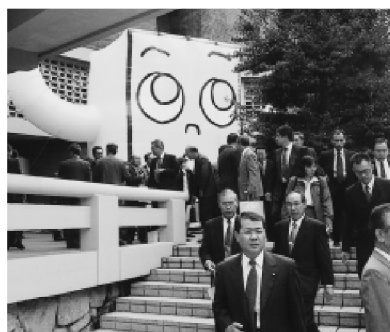
創立100周年を祝う 多彩な行事

祝 創立100周年記念式典

岡山県立岡山工業高等学校



長江弘行校長より感謝状を受ける
工友会萩原明会長。



会場となった岡山市民会館。

創立100周年 記念式典

十月十日、創立百周年記念式典が挙行された。多くの来賓を迎え、厳粛かつ盛大に創立百周年を祝った。

会場の前には記念マスコットとして生徒会が作った巨大「アツと君」が来賓を出迎えた。

十時予定通り開式の辞、国歌斉唱、黙祷に続き、長江弘行校長が「百年の重みを改めて認識するとともに今後とも科学技術の進展に対応した工業教育を、校訓である誠実勤勉の精神で推進したい」と式辞を述べた。

続いて、母校の教育推進に功労のあった関係者の表彰があり、工友会を代表して萩原明会長に、感謝状と記念品が贈られた。

その後来賓の祝辞に続き、学校側の一人として萩原明工友会長から挨拶と謝辞があった。

最後に岡山工業高校の新世紀でのますますの飛躍と発展を誓い、吹奏楽部の演奏により、工友会員、生徒一同校歌斉唱でこの式典をしめくくった。



創立100周年 祝賀会

記念式典の後に開かれた「祝賀会」



平成13年度 工友会総会

節目の年の工友会総会。多くの会員の出席をいただき、母校百周年の工友会運営についてご審議を頂いた。
懇談会も例年以上に盛会に行われ、旧交を温め



創立100周年 記念講演

十月九日
萩原会長の創立百周年記念講演



創立100周年 記念誌

岡工創立百周年記念誌「工の伝統(たくみのつたえ)」が出来上がりました。

「岡工百年の歩みを「県立工業学校の歩み」、「市立工芸学校の歩み」、「二校統合・新制高校の足跡」、



「岡山工業高等学校の発展」、「伸びゆく岡山工業高等学校」の五章にまとめていきます。

さらに記念式典、岡工の現況、旧師の寄稿などを、豊富な写真で見やすく編集してあります。

ご購入希望の方は岡工事務室までお問い合わせください。(二千円・送料別)



四月、創立百周年、記念すべき一年の始まりを宣言した。



本館の懸垂幕「アツと君」は校内外に百周年をアピールした。

記念体育祭

創立百周年記念の体育祭は好天に恵まれた十月三日開催された。運動場に設置された聖火台上に、巨大「アツと君」が立ち上がり、観客を驚かせた。

各種競技の盛り上がりとともに、応援合戦での、百周年を祝って各科それぞれの抑揚で歌った校歌が印象的だった。



創立100周年記念キャラクター「アツと君」うちわで応援。



熱戦に沸いた体育祭。部対抗リレーは特に盛り上がった。

記念岡工祭

今年の岡工祭は創立百周年を記念して例年以上の盛り上がりを見せた。特に岡工ならではの「ものづくり」のみえる展示・模擬店が数多く見られた。

日頃の学習で培った工業技術がいかななく発揮され、岡工の歴史とパワーを見せつける岡工祭であった。



機械科制作のミニチュア蒸気機関車が力強く走った。



100周年を記念して例年以上に盛大に開催された。

記念回顧展

十一月九日から十七日まで本校の工友会館において百周年記念回顧展が開催された。工友のみなさまから提供された貴重な写真や品々が展示された。

校章や制服、教科書、製図用具などに往時をしのぶ工友の姿も見られた。



熱心に展示品を見入る生徒たち。岡工の歴史に驚きの連続だった。



会場前には紅白幕と第一回卒業生の写真をあしらった看板。

比べてみれば

佐古井耕三
(昭和33年機械科卒)



平成十三年六月、イギリスとフランスをつなぐドーバー海峡の下に二本の鉄道トンネルが貫通しました。私はこのトンネルを掘った機械の設計を担当し、続いて運転やメンテナンスの指導・予備品供給などのために、昭和六十三年の夏から平成三年の夏まで三年間北フランスの小さな町カレーで暮らしました。

なお、トンネル掘削や機械技術に興味をお持ちの方は『ドーバー海峡を鉄道が走る』宇賀克夫著 あすなる書房(1992年)をご参照下さい。

カレーの町は海峡を隔ててイギリスのドーバーとフェリーで片道約二時間でつながっている。土・日になると、このフェリーを利用してイギリスから車がどんどんやってくる。目当ては近郊のスーパーで、カーに山盛りのビールやワインを仕入れてこ機嫌で帰っていく。フランス側の雀共はこれを見て鼻先で笑う。

海峡に面するフランス海岸の町々には、イギリスに向かって剣を振り上げている土地の英雄の像が沢山残っており、百年戦争の恨み今だ消えずの風情。そこに酒の買出し部隊が押し

かけるから『あいつら酒に困ってるのかい、哀れなもんよ』の思い入れが鼻先で軽蔑(心からではない)を表してみせる。

トンネル工事にまつわる風刺マンガの一つ。海底下のトンネル貫通を祝って抱き合っているイギリス人とフランス人。互いに右手は短刀を持って自分の背中にかくしている。日本と近隣諸国との間が、この様に笑って飛ばせるにはやはり時間が必要か。

ある年の暮れ、休暇を取るため客先の了解を取りに責任者に会ったら、日本に帰るのか?と聞く。まだ行き先は決めていないがどこか旅行をするつもりだと答えたら、おまえ一人か、日本人は大勢で旅行するんだろ?ときた。また別のとき、食事の話になって、日本人は皆同じ物を食う。なぜ食べ物の好みまで同じなんだ?と聞く。団体旅行は日本人の専売特許ではないが、団体故のマナー欠如は確かに目立つし、レストランのメニューを見て何がなんだかかわからないから同じでいいやとなってしまう。

一方彼らは個性を重んじる。自分の個性を大事にすることは、

人の個性も尊重することが基本であり、団体旅行しても最低限のマナーは守る。その中で自分とは皆と同じじゃないと主張したいから、誰かがコーヒーを頼んだら俺は紅茶となる。

現場では、我々は朝の作業開始前にラジオ体操をしていた。これがフランス人にとってまことに異様な光景であったらしい。そもそも個人主義を標榜する彼らにとつて、団体で一指乱れず体操をするなど、ナチの再来かと思つたに違いない。

片や、工事現場であるから、日本と同じように定期的に職場の安全パトロールをする。参加せよといわれて指定の場所・時間に行くと、その付近あちらこちらに三々五々おしゃべりをしていて、誰がリーダーやらさっぱりわからない。そのうち、なんとなく順路にしたがって歩き出す。だれも行こうとか、今から始めるとか号令をかけたものはいない。途中でもそれぞれ勝手な会話をしている。も



ちろん帰ってから指摘事項など気のついたことは求められるが、おまえ何か言えなどと強要されることも無い。

十二月に休暇を取つてスペインに行った。前述の責任者氏お勧めのセヴィリアに行く途中、マドリッドで市内見物して昼飯も食つた。ところが、夕方からレストランだけでなくほとんどの店が閉まる。気がついたら二十四日クリスマスマスイプである。はて困つたなと思案していたら、押すな押すなの大繁盛の立ち飲み屋(フランスで言うカフエ)がある。なるほど人を掻き分けビールとサンドイッチをやつと手に入れ片隅でかじっていたら、一人の日本人青年が居た。お互い苦笑いしながら、話を聞いたら海外青年協力隊で南米に二年居て帰国の途中と言う。

その夜は、スペイン語の話せる彼のおかげでフラメンコを見て夜の町をうろついた。自信にあふれた親切な好青年で、日本の若者も捨てたもんじやないかと心強く思う反面、彼が帰国してからの就職が心配だった。日本のほとんどの企業はこの不況下でさえ新卒者を、しか

もブランドを頼りに採用してから教育する。だから、学生は入試勉強だけすればよい。彼らのような覇気のある人材が生かされる、能力本位の社会に早くならないと、日本社会の活性が失われてしまふもう失った？。

翌日、青年に聞いたローマ時代の水道橋やデイズニーの白雪姫のお城のモデルになった古城があるという小さな町へ出かけた。列車を降りて、バス停とおぼしき場所待っていると、六十代も後半と見受けられるおばあちゃん四、五人、また別に壮年期を過ぎたばかりのご夫婦、どちらも案内書片手に悠々とやってきた。見ろ！見ろ！見ろ！日本人だつて個人旅行ぐらいへのかつぱ！おばあちゃん万歳！

多くの日本人は議論が下手である(私だけではない)。あるとき、学校教育の話になった。相手曰く、学校では仮定した対立意見AとBの二グループに強制的に振り分け、自分のグループが正しいとする討論を徹底してやらせる。また個人単位では、例えば南極で植物を栽培する方法などの命題を与えて研究発表させる。こうして論理

的な思考・論点の整理・発言力・説得力などを訓練する云々。私自身はもとより私の子供達も、学校・家庭のいずれでもこのような訓練は受けたことがないし、したこともない。

思うに、多くの民族が入り乱れ争いを繰り返してきた西欧の歴史が、平和的に問題を解決する手段としての対話重視となったが故の結果であろうが、われわれの『議論Ⅱ口論』の観念とは大きく異なり『議論Ⅱ自己主張(表現)』の世界を知らないければ(あいつは何を思っているのか分からない気味の悪いやつ)になってしまう。

フランス人は働かないという先入観を持っていた。事実夏の長いバカンスシーズンは中小の工場などは開店休業の状態になる。しかし、個人は実によく働く。また、現場にしても事務にしても仕事の進め方についての訓練がよく出来ているように思える。我々のようにがむしゃらに働く(動く)のと違って、手順にしたがって整然と無駄なく仕事を進めるといった感じである。

たぶん職業教育の成果であろうが、日本では知識の教育は

あつても具体的な実務教育が無いと思う。

個人のお宅に招待されることがよくあつた。招待はうれしういが会話も満足に出来ない身としてはかなりつらい。その上自国の歴史・文化などの知識の欠如が恥ずかしい。料理はその時々によつて旦那が作つてい



Mr. Suguet宅にて 右から3番目が筆者

たりする。男も料理することは知つてはいたが、結構上手で驚かされる。家の中は比較的質素で、テレビ・洗濯機なども置いてない家もある反面、代々の古い家具が部屋の中で威張つている。

お返しにこちらも招待しなければならぬから、わがアパートへ夫婦で来てもらつて、無

骨な料理を出す羽目になる。かといつて腕があるわけではなから、仲間の何人かへ得意料理を持つて来いと言つたら、片道二時間の町まで冷凍ギョーザを買いに行つたやつがいて、涼しい顔をして出したら好評であつた。以来その男は毎回買いに走つた。

日本人が毒魚(河豚)を食う話は興味の上であつたが、幸い食わせるとは言われなかつた。最も好評を得た料理はカレーである。オオースパイシーと奥様方喜んでもらった。刺身は簡単だからよく作つたが、ある時、姿造りの真似事をして出したところ、奥さんが旦那に魚の目がにらんで気持ち悪いとささやいた。鳩の頭を丸かじりする神経でも、魚の目は別らしい。

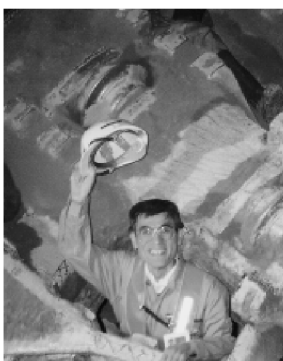
別の旦那は燕の浅漬けを食して文化の違いを悟り、小魚のあらで造つた骨せんべいが甚く気に入つて、油の温度は？時間は？と矢継ぎ早の質問であつたが、こちらにすれば偶然の産物であり料理教室を開くには至らなかつた。

あのEC圏がひとつになり、巨大で多様な経済・文化圏が誕生する。その中で暮らす人々は

自分の意見を主張し、妥協することを知つて、意外に質素に暮らしている。国を離れると、日本人であることを意識すると言われているが、まさに自分もそうであつた。

二十一世紀もまもなく二年目になる。いつまでも利権繩張り・もたれ合い、一億総甘えの日本がはつきりと見える。また、日本は最も無駄な贅沢(使い捨て、食べ残し)をしている国と思つた。これから我々もつと謙虚にならなければならぬし、個の確立も真剣に考える必要がないだろうか。

最後に偉そうなことを書いてしまいましたがお許しを。工友会諸兄のご健勝と岡工の更なる発展を願つて 平成十三年十二月起稿



ドーバー海峡鉄道トンネル貫通。掘削機のカッターによじのぼつて



祝・岡工百周年

岡田 順治

（平成三年工業デザイン科卒）

先日、岡工百周年を耳にした時は正直驚きました。思い返してみれば、現在私が二十八歳で、高校三年の十八歳の時に九十周年を迎えたのだから、なるほどと納得しました。

一九八九年平成元年、岡工の制服がブレザーに変わった年に私は入学しました。最初は正直、少々恥ずかしかつたのを覚えています。なぜなら、先輩達は学生服、一年生の自分たちだけがブレザーだったからです。

そしてちょうどその九十周年を迎える年、全校生徒がブレザーとなりました。おかげさではありますが、この年、新たな岡工の歴史がはじまったのです。

思い返せば、当時の体育祭や文化祭、色々思い出がよみがえります。

担任の内田先生の勧めで、一、二年生の時は生徒会の一員となりました。さまざまな行事を裏でささえるという、大変な仕事でしたが、一つの行事を無事終わらせた時の達成感はなかなかここに

良いものでした。

中でも一番よく覚えているのは、九十周年の前年、体育祭の閉会式で、全科七色のカラーテープを校舎の屋上から流したことです。全校生から、歓喜の音が沸き上がった時は、さすがにうれしくて身震いしそうでした。そして、九十周年の年の体育祭は、「岡工九十周



体育祭であいさつをする筆者。

年」という垂幕を導火線を使っておろしていくという画期的な試みが実行され、見事大成功でした。これまた大歓声でした。

色々な行事、テストに課題、大変な事もいっぱいでしたが、それ以上に仲間との楽しい事の方が多く脳裏によみがえってきます。

一九九二年三月に卒業して、就

職、結婚。現実はなかなか厳しく、この不況の中、職も転々としてきました。でも、現在は妻と娘一人、たよれるオヤジとなるため日々がんばっております。そして、家族から多くの元気をもらい、何よりも心豊かに生きていられる幸せを感じているところです。

今、高校の頃、学習した事とは

生徒会長を終えて

第五十二期生徒会長 福井さおり（電気科）

私が岡工へ入学し、三年が経とうとしています。私は電気科初の女子で、最初はクラスにも馴染めませんでした。しかし先生方や友人が励ましてくれたおかげで、ここまでやってこれました。

岡工で私は数えきれないほど多くのことを学びました。私が生徒会長を務めた今年、創立百周年の記念すべき一年でした。重大なこの年を、これまで以上の生徒会活動として成功させられるのかとても心配でした。しかし、その不安よりも岡工が大好きな私は、何か学校のためにやりたいという思いが強かったのです。

百周年の生徒会活動ははつきり言つてとても大変でした。休日

全く違う仕事をしています。私には岡工のデザイン科に籍を置き卒業した事が大きな心の支えと自信になつていきます。

最後になりましたが、創立百周年おめでとうございませう。

そして、岡工の益々の発展を心よりお祈りします。

めざせ二百周年。えっ？

にも登校し、準備や作業をしたり、記念誌や広報誌へ載せる原稿を何枚も書きました。また、多くの場で挨拶をするなど、昨年までの生活とはまったく違い、つねに生徒会の仕事に追われていたように思います。

体育祭や岡工祭の大きな行事では、夜遅くまで作業したり、試行錯誤の未失敗したこともあり



創立記念式典で大役を果たした。

ました。多くの人と接し、私のアイデア、企画をみんなが認めてくれ、実現させることができた時は仕事のやりがい、楽しみを感じました。

千人以上からなる生徒会。それを運営することはた易いことではなく、思い通りにはなりません。会長の仕事は難しく、責任も重大でした。投げ出したくなることもありましたが、やらなければいけないことを忘れてみんなを困らせたり、意見の違いで言い合いになったりもしました。それでも生徒会長として長い任務に無事終符が打てたのは周りのみんなのおかげです。一人では出来ないことがたくさんありました。仲間の大切さは、これから社会へ出てもしっかりと心にとめていきます。

この百周年は岡工にとつて特別な一年でした。創立百周年の年を盛り上げようとするみなさんの姿は、素晴らしい歴史として刻まれたことでしょう。この記念すべき年に生徒会長を務めて本当によかったと思います。会長になったことを誇りに思います。胸を張って卒業します。これから生きていくうえで大切なことをたくさん学びました。そのことをしっかりと心に刻み、新たな道へ歩み出す糧にしたいと思います。

工友の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、岡山工業高等学校におかれましては、平成十三年十月十日に創立百周年の記念式典を挙行され、誠にめでとうございます。心からお慶びを申し上げます。

私は、昭和五十四年四月から当時の電子科の教員として、平成八年三月まで十七年間にわたり岡工に勤務させていただきました。

私が岡工に赴任しました昭和五十四年四月は、初代の電子科長でありました安井先生が教頭として岡山市工へご榮転になり、代わって秋山先生が科長になられた年でありました。当時の電子科は、秋山科長以下、大崎、吉田、地頭代(現情報技術科長)、中桐の各先生と私の六名でありました。職員室は、化学工学科棟の三階にあり、眺望が非常に良く、北は金山、西は京山、東には岡山市街が一望でき、春夏秋冬の季節の移り変わりが実感できたものであります。

当時は、第二次オイルショックの後でありましたが、日本の産業界は重厚長大から軽

薄短小に移行していた時代で、電子、情報といった企業は活況を呈しておりました。このような状況の下、岡工ではこれまでの卒業生の実績もあり、大手のほとんどの企業から求人をお願いしておりました。当時の岡工は、工業の中心校、歴史と伝統に裏打ちされた実力の岡工、巷で言われていま

の中で教科書に載っていないような高度な内容も教えておりましたが、生徒たちはハイレベルにも拘わらず、非常に熱心に一生懸命勉強しておりました。中でも、実習ではレポート用紙が十数枚になるような報告書を毎週のように書かせていましたが、分量が多いにも拘わらず、期限内にほと

が強く、また、科の先生方との人間関係も密であり、結果として、自主的・自発的な取り組みにつながったのではないかとと思います。私は、十七年間岡工に勤務させていただきましたが、その中で、最も大きな出来事は、平成五年四月に学科改編により情報技術科が設置されたこととあります。



であつたといえます。

平成七年の夏には、鉄筋三階建てのモダンな情報技術科棟が完成し、最新の設備とともに県下を代表するような情報技術科が誕生したわけでありました。中でも、屋上にそびえるタワーは岡工のシンボルとして後世に引き継がれていくものと思えます。

した天下の岡工であつたと思えます。このことを反映して、生徒達の進路意識は非常に高く、中には求人が来る前から受験する企業を決めている者もあり、担任として進路指導の必要のないぐらい積極的でありました。

当時の授業では、座学や実習

岡工17年の思い出



沖島 弘光
(元電子・情報技術科科長)
後列右から2人目

多くの生徒が提出するといった状況でありました。

また、体育祭では、毎年一月ほど前からデコレーションの製作に取り掛かっていましたが、生徒の自主的な取り組みにより、見事なパネルを完成させていました。とくに、電子科は単一クラスということもあつて、生徒同士の仲間意識

この改編は、当時の著しい技術革新と情報化の進展に対応するために行われたものであります。これにともない、昭和三十四年に設置された電子科(当時は電気通信科)は、平成七年三月の卒業生をもって、三十六年の長い歴史に幕を下ろしたのであります。

このことは、卒業生にとつて、非常に残念なことであつたと思えますが、工業高校には、産業界に有為な人材を輩出する使命があつた同時に、常に産業界のニーズと向い合いながら教育内容の改善・充実に努めるとともに、時代の要請に沿った学科に改編する努力が求められていたわけでありました。そういう意味において、学科改編は必要であり、情報技術科への改編は時宜を得たもの

岡工に在籍した最後の年に、このような大きな事業に参画できましたことは、私にとりまして大きな喜びであり、同時に大きな思い出でもあります。

最後になりましたが、これまでのご支援に対しまして、心より感謝申し上げますとともに、岡工の今後ますますの発展と工友の皆様方のご活躍、並びに、工友会の更なるご発展をお祈り申し上げます。

後輩もがんばっています

【専門科】

【機械科】

- ・機械製図コンクール 最優秀特別賞 丸上貴之
- ・第五回スターリングテクノラリー 高校ミニクラスの部 第三位
- 【電気科】
- ・ジャパンマイコンラリー2002 全国大会出場

【デザイン科】

- ・全国高校生デザインコンクール 環境大臣賞 羽納大介
- ・全日本高校生デザイン・イラスト展 会長賞 辻孝文
- ・全国高校生アートビエンナーレ 優秀賞 尾崎治門

【情報技術科】

- ・県産業教育フェア相撲ロボット大会 自立型優勝

【部活動】

- ・(平成十三年度全国大会出場部と主な入賞者)
- ・インターハイ出場(於熊本)
- ・陸上競技部
- ・自転車競技部 ポイントレース優勝 片山智晴(化3)

・バスケットボール部

- 第56回国民体育大会(於宮城)
- ・陸上競技部 Jr110mハドル優勝 高橋清太郎(建1)
- ・自転車競技部 ポイントレース第4位 片山智晴(化3)
- 走第8位 國岡広樹(機3)
- ・ボクシング部 フライ級第3位 井戸謙太(電3)
- ・バスケットボール部

■全国高校少林寺拳法大会(於新潟)

- ・少林寺拳法部
- 全国高校カヌー選手権大会(於山梨)
- ・カヌー同好会
- 全国高校バスケットボール選抜優勝大会(於東京)
- ・バスケットボール部 初戦突破

■全国高校総合文化祭

- ・美術部 写真部 書道

■活躍を報じる新聞記事。



- その他 中国大会出場
- 陸上競技部 自転車競技部
- バスケットボール部 弓道部 少林寺拳法部 水泳部 空手道部 ボクシング部 ハンドボール部 囲碁同好会
- ラグビー部 岡山市内高等学校PTA連合会善行表彰

ジュニアマイスター顕彰

第一回ジュニアマイスター顕彰認定において岡工は、三名(ゴールド五名、シルバー三名)が認定されました。この数は、全国的に見て第四位であった。

この顕彰制度は、全国工業高等学校長協会より、在学中に取得した職業資格や技術・技能検定の合格実績を得点化し、三〇点以上に「ジュニアマイスターシルバー」の称号を贈り、さらにその中から特に優れた生徒に「ジュニアマイスターゴールド」が贈られる。

認定の分野としては、国家資格の取得、検定試験の合格、競技会・大会発表等での所定の成績を収めたものなど、一〇種類を対象としている。第二回として三〇名が現在、申請中である。

名簿・新聞広告

ご注意下さい!

■岡工・工友会の名称を使って名簿の勧誘をする業者があります。文面には『学校・同窓会とは関係ない』ことを明記してある場合も「ごさいませ。工友会とは一切関係ありませんのでご注意下さい。」

■工友会会員名簿の発刊は、五年毎に行っています。次回二〇〇四年の予定です。その際には事前に会長名で調査カードをお送りします。このカードは必ず岡工に届くようにしてあります。業者に直接返送されることはありません。

■母校岡工が創立百周年を迎えましたので「百周年記念」と名簿だけでなく新聞広告などの勧誘をする業者があります。くれぐれも「ご注意下さい。」

・学校から電話などで「住所や電話番号を聞くことはありません。」

・ご家族の方にも十分注意して頂くようにお伝え下さい。■不審なことなどがありましたら工友会事務局まで連絡をお願いします。

編集後記

関係者多数のご協力をいただきました。まして、第四十三号の会報を無事発刊することができ、寄稿いただきました皆様方に厚くお礼申し上げます。

創立百周年のいろいろな記念行事を無事に終えることができ、関係者のご協力に感謝いたしております。また、記念会館建設に向けて現在、準備が進められておりますが、完成する日を今から楽しみにしております。

会報の誌面充実のため、各地の話題、会員の動静、同窓会の開催報告などがありましたらお知らせください。今後ともよろしくご協力いただきますようお願いいたします。

藤原重喜(昭四六機械科卒)

ご意見・情報
お問い合わせは...

〒700-0013
岡山市伊福町4-3-92
岡山県立岡山工業高等学校

工友会事務局

tel:086-252-5231
fax:086-252-7130
http://www.okako.com/